

地域の手で未来へつなぐ、輝く道 —信州ビーナスライン輝く道づくりのいま—



ビーナスラインを「日本一きれいな道」にすることを目指す「信州ビーナスライン輝く道づくり」の活動が、今年で10回目の節目を迎えました。

活動の原点は、観光地に少し陰りが見えた頃の「愚痴を言っても始まらない、できることから始めよう」という決意でした。そんな決意から、街を綺麗に磨き、各エリアが一丸となって清掃を行うことで、地域全体でこの場所を大切にする意識を可視化する試みが始まりました。

「白樺湖観光まちづくり協議会」、「信州たてしな観光協会」、「蓼科観光協会」3協会の共同作業がこの活動の原型となり、その後、建設業会の力強い協力を受けて「第1回」として本格スタートしました。そして、回を重ねるごとに、各種事業団や金融機関、企業や小学校と参加の輪は着実に広がり、今や近隣の沿線へもその思いが波及しています。

「みんなが使う道を、みんなできれいに」——そんな純粋な情熱でつながった地域の力が、ビーナスラインの魅力を着実に磨き上げています。地元の人にも、茅野を訪れる人にも、「手入れが行き届いていて心地よいおもてなしを感じる」と心から思ってもらえる道を目指していく——。

今月の広報では、そんな地域をあたたく包む取り組みの様子を特集します。



地元の企業も、学校も、住民もみんなで創る

ビーナスラインを日本一輝く道に



北山小学校による花壇整備（令和7年度撮影）



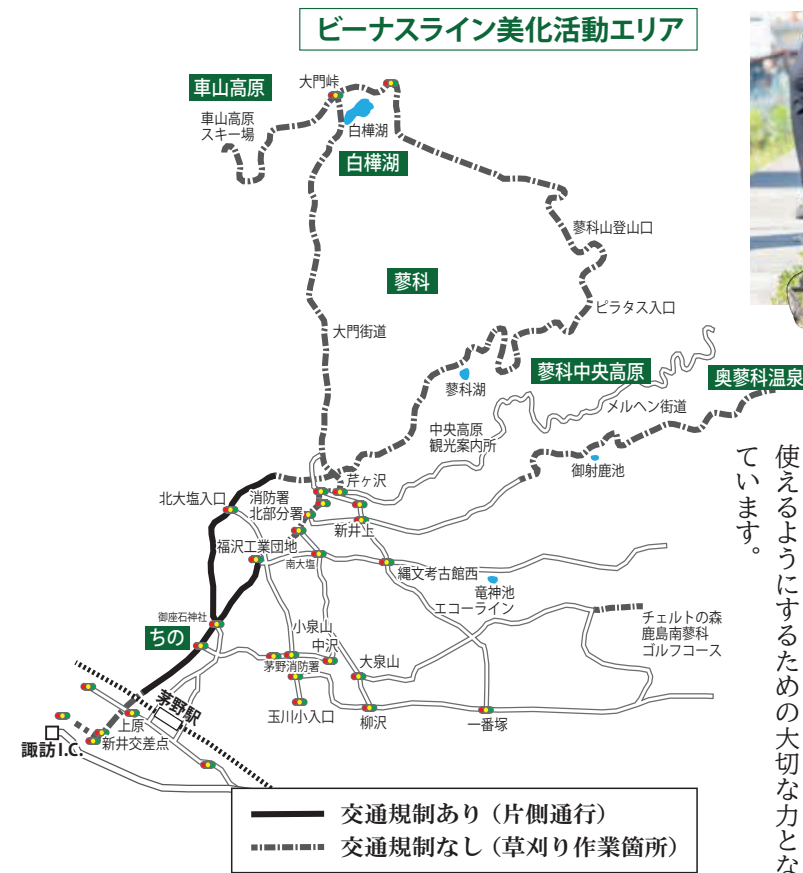
10回目を迎え、正直「よくぞ続いてきたな」と感無量です。ここまで続けられたのは、参画団体の皆さん、一緒に汗をかくてくださる住民の方々、協力者の皆様のおかげだと思っています。また、同じ環境で汗を流す中で生まれる「同志」のような絆は、ふるさとを大切にする「人づくり」や「地域の繋がり」も育んでいると感じています。

この活動の原点は、観光地として少し陰りが見えた時期に、「あれがいけない」と文句を言うのではなく、「できることから始めよう」と立ち上がり、みんなで協力を始めたことにあります。そして、ビーナスラインの前身である「蓼科有料道路」は昭和の時代に開通し、地域の観光と私たちの暮らしを長年支えてきてくれた歴史があります。だからこそ、自分たちの代で使い古して終わらせるのではなく、綺麗に磨いて次の世代に手渡す義務があると思っています。

許されるのであれば、ともに過ごすこの大切な街を自分たちの手で綺麗にし、誇りを持てるふるさとを今後も共に作っていきたいです。「茅野市に入った瞬間、手入れが行き届いていて心地よいおもてなしを感じる」、そんな日本一綺麗な道を目指し、安全管理を徹底しながら、この活動を粛々と続けていきたいです。



信州ビーナスライン輝く道づくり
実行委員会 実行委員長
あさくら ゆういち
朝倉 祐一さん



令和8年7月9日、第10回を迎えたビーナスラインおよび近隣の沿線の一斉環境整備美化活動が行われました。

国・県・市・町や建設事業団、観光協会をはじめ、民間事業者や大学法人などの協力のもと、約740名が参加し、沿線の草刈りやゴミ拾い、支障木の伐採や花壇整備などの美化活動が行われました。また、別日には、小学生による花壇整備を通じて道路に親しみを感じてもらう活動にも取り組んでいます。

気温が高い中、安全・安心に配慮しながらの作業は一筋縄ではいきません。それでも「少しでも景観が良くなるように」と汗を流す多くの方々の活動によって、この美しい道は保たれています。年々広がる協力の輪が、誰もが気持ちよく道を使えるようにするための大切な力となっています。